

新交通体系は？

町長 住民の理解が必要

【杉谷】本町は広範囲に集落が点在している。車の利用ができない交通弱者（高齢者や学生等）の移動手段の対策が必要と思う。

【町長】交通弱者に対する移動の確保は、基礎的・基本的な社会資本の整備であると考えている。本町公共交通会議で公共交通体系の見直し作業に取り組んでいる。

【杉谷】住民の公共交通に関するアンケート調査の結果は。

【町長】高齢化が進む中で、将来への交

通（買い物、医療等）に対しての不安が感じられる。

【杉谷】交通の空白地域の解決は。

【町長】路線・巡回バスを必要最小限残し、また交通の空白地域にはデマンド的な新しい交通システムを検討している。

【杉谷】新交通体系の実現は。

【町長】平成23年度中の実現を予定している。

【杉谷】公共交通で必要かつ効率の良いものは継続し、住民



生活につながる路線バス

と行政が知恵を出し合って考える時期がきている。

【町長】公共交通会議で方向性の提言を受け、行政だけではなく、効率的に利用いただくため、住民の理解が必要である。



杉谷洋一 議員

地域の学校支援体制は？

教育委員長 子どもの成長に重要

【杉谷】学校支援活動へ地域住民の参加で、学校と地域との結びつきを深め、体験学習の生きた教材により、学校教育の充実と児童生徒の人間形成の向上が求められている。

【教育委員長】地域とかかわりながら、教育活動を展開していくことが、大変重要と考える。

子ども見守り隊の皆さんに、登下校にお世話になっていたり。また、地域の方々にゲストティーチャーとして招き、大山町の歴史・自然、野菜



地域の支えで芝生の管理

や米の栽培など、直接子どもへの指導支援を行っている。

【杉谷】地域の協力による校庭の芝生化は。

【教育委員長】学校グラウンドの芝生化は、県も普及に努めている、芝生の除草、冠水、頭刈りなどの管理作業を学校だけで行うことは、現実的には難しい。町内では、地域の皆さんで組織された「芝ボランティア」が大山

小学校のグラウンドで芝生管理作業を行っている。

【杉谷】学校の外部評価の導入は。

【教育委員長】保護者や地域住民など外部の視点を学校運営に取り入れることで、閉鎖的な学校から、より地域に開かれた学校へ変わっていく。現時点では、町内3校で運用・実施しており、他校も、準備を進めている。